

中国出版の日本語教科書の教材分析

Analisis of Japanese text books which published in China

大 橋 敦 夫

Ohashi Atsuo

《抄録》

中国で出版されている日本語教科書（日本文学鑑賞用）と、日本の高校国語教科書（国語総合）の教材を比較した。その結果、日本の教科書では、近代の著名な作家の作品があまり収録されていないのに対し、中国の日本語教科書では、日本の文学史に忠実な教材選択をしていることがわかった。

（在对中国出版的日本語教科書（日本文学鑑賞用）以及日本高中国語教科書（国語総合）の内容進行比較後發現：日本的教科書中很少収録近代著名作家的作品、而中国的日本語教科書則選択忠実日本文学史的教材。）

【キーワード】 日本語教育，日本語教科書，中国の日本語教科書，教科書，教材分析

1. はじめに

教科書が改訂される度になされる近年の新聞報道は、やや形式化しているように思われる。すなわち、社会科についての扱いが最も先鋭化して、歴史認識や領土問題など、政治絡みで扱われることが多い。これに対し、国語や英語あるいは音楽の場合、現代的な新しい作家や作品を取り上げている例を誇張する、といった体である。もっとも、教材内容に踏み込んだの評論は、研究者の領分であろう。というわけで、最近の国語教科書の教材選択について、中国出版の日本語教科書を参照に考察してみたい。

2. 調査の方法と分析

まず、参照に用いる中国出版の日本語教科書を通覧し、その特徴を確認する。続いて、現行の国語教科書の教材を観察し、両者の比較から浮かび上がる事がらを指摘する。

◆表 1. 中国出版の日本語教科書

- | | |
|---------------------------------------|-----------------|
| ①『日本近代名作鑑賞』(1992.10) | |
| ②『日本近現代文学閲読と鑑賞—附日本近現代文学概述』上・下(1993.2) | |
| ③『日本近代文言文選』(1993.8) | |
| ④『日本現代文学選読』(1997.1) | |
| ⑤『日本文学』(1997.3) | |
| ⑥『日本文学作品選読』(2001.1) | ※上海普通高校“九五”重点教材 |
| ⑦『日本名作高效閲読』(2004.6) | |
| ⑧『日本近現代文学作品選析』(2004.12) | ※日本研究生教材 |
| ⑨『日本現代短篇名作賞析』(2005.6) | |
| ⑩『日本近現代文学選読』(2006.2) | ※高校日語專業基礎課系列教材 |
| ⑪『日本近現代文学名作選析』(2007.8) | |
| ⑫『日本名著賞析』(2007.9) | |
| ⑬『日本文学選読』(2007.11) | ※高等学校教材 |
| ⑭『日本近代文学作品選読』(2007.11) | |
| ⑮『日本文学選集』(2008.4) | |

上記の教科書は、架蔵のもので、網羅的なものではないが、1990年代から現在に至る傾向を知ることのできる分量であろう。これらは、何点かの教科書の惹句(※)が示すように、日本語専攻の大学生もしくは大学院生を対象としている(注1)。いわば、中国の日本語教育界が成人に対して想定する日本文学教材のスタンダードが示されていると言える。

後掲の「資料1」に、①～⑮の目次を掲げた。全体的に、著名な日本の近代文学作品を通時的に収録し、文学史の理解も深まるような配列が多い。「浮雲」「舞姫」「羅生門」「城の崎にて」「伊豆の踊子」といった作品は、「定番」である。その一方で、横光利一・遠藤周作・安部公房など、日本の大学生が手にしなくなりつつある作家にも、目配りがされている。

また、古典については、教科書によって方針の差があり、収録のないものもあるが、収録されている作品は、枕草子・徒然草・方丈記など、こちらも有名なものが主である。

次に、現行の国語教科書の分析に移る。中国の日本語教科書の使用者として想定される年代と最も近いのは、日本の高校生ということで、高校国語教科書(表2)を対象とする。

◆表 2. 日本の国語教科書（国語総合）◆

- a. 『新編国語総合』（東京書籍 2007.2）
- b. 『高等学校 国語総合〔改訂版〕』（三省堂 2007.3）
- c. 『国語総合 改訂版』（教育出版 2007.1）
- d. 『国語総合』（数研出版 2007.1）
- e. 『新精選 国語総合』（明治書院 2007.1）
- f. 『国語総合 改訂版』（筑摩書房 2007.1）
- g. 『高等学校 改訂版 国語総合』（第一学習社 2007.2）
- h. 『展開 国語総合 改訂版』（桐原書店 2007.2）
- i. 『国語総合 改訂版』（大修館書店 2007.4）

（財団法人 教科書研究センター所蔵）

戦後の高校国語教科書の変遷について、吉田裕久氏は、次のような時代区分を示されている（注2）。それによると、

第Ⅰ期〔昭和23年～同37年〕国語としての出発

第Ⅱ期〔昭和38年～同56年〕現代国語の登場

第Ⅲ期〔昭和57年～現在〕国語Ⅰ・国語総合の登場

となり、第Ⅲ期では、古典的教材の定番化・固定化と、現代的教材（山田詠美・吉本ばなな等）の同居が見られるとのことである。

古典的教材の定番化については、中村督裕・吉村裕美の両氏による、平成12年度用の高校国語教科書についての調査でも、国語Ⅰでは、「羅生門」が14社中、13社の教科書に載っている。また、「こころ」「山月記」は、国語Ⅱの教科書に多く採られ、「舞姫」は現代文の教科書に多い（注3）。

表2に掲げた現行の国語総合の教科書でも、小説で「羅生門」が全教科書に採用されていて、古典的教材の定番化を一応は指摘できる。が、その数は少なく、評論・随筆など小説以外の分野では、各教科書ごとに作品や教材の採用が工夫されており、どの教科書にも載っているという作品は、今や「羅生門」のみである。

俳句では、高浜虚子が、短歌では、与謝野晶子・石川啄木・斎藤茂吉が、どの教科書でも目にする名前である。が、やはり収録作品となると、あまり一致を見ない。比較的多くの教科書に採用されている作品は、次の2例である。

万緑の中や吾子の菌生え初むる 中村草田男（7／9）

その子二十櫛にながる黒髪のおごりの春のうつくしきかな 与謝野晶子（7／9）

高浜虚子の作品は、

春風や闘志いだきて丘に立つ

が、4社共通という状況で、作品の一致度が低い。

これでは、教科書が違うと、共に語り合える材料が少ないということになりがちである。

3. まとめ

中国発行の日本語教科書（日本文学鑑賞用）が、日本の文学史に忠実で、オーソドックな教材選択をしているのに対し、日本の高校国語教科書では、著名な文学史上の作品にふれることが少なくなっている。日本と中国とで、それぞれに日本文学を学んだ学生が、共に語れるのは「羅生門」についてだけである（注4）。

平成の時代に入って、国語教科書から鷗外も漱石も消えてしまった。そのことが持つ深刻な意味を再考する必要がある。現代的教材が悪いという訳ではないが、日本の、あるいは日本語の近代を作り上げた作品を踏まえることなく、次なる発展は望みにくい。

4. おわりに —— 今後の課題 ——

教育の現場では、「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」とも言われ、教科書がすべてではないことは、確かである。

教科書をめぐっては、つまらない本の代名詞として否定的な評価を下されることがある反面、肯定的なとらえ方をする向きもある（注5）。

いずれにせよ、平成の「ゆとり教育」見直し機運の中、教育・学習の出発点となる国語教科書をあらためて見直す時期となっている。国民的教養の基盤として、何が重要かを問い直し、教室で熱意をもって扱われる教材の再考が求められる。

その前提として、上述のスケッチをさらに精緻にする一方、中国以外の地域の日本語教科書にも目を向けていきたい。

【注】

1. それぞれの教科書の「前言」等にも、次のような自己規定が表現されている。たとえば、「本書可作大学日本語文学専業高年級的“文学選読”，“小説賞析”課的教材」（④）「本教材是為日語専業学生編写的日本文学教材」（⑤）「本教材是作為大学日語専業高年級教材編写的」（⑨）「本書可以用做日語専業高年級日本文学選読課的教材」（⑮）と書かれている。
2. 吉田裕久氏「戦後高等学校国語教科書の変遷」『センター通信』No.86（財団法人 教科書研究センター）2006.3.20
3. 参考文献①参照。
4. 最近、筆者はこんな経験をした。教養科目のクラスで、「露伴・紅葉・一葉」のフルネームを尋ねたところ、すらすらと答えられたのは、日本の学生を差し置いて、日本語専攻の中国人留学生だった。
5. 岡崎武志氏「国語の教科書は文学のアンソロジー」（同氏『読書の腕前』光文社新書 2007.3）

【参考文献】

- ① 中村督裕氏・吉村裕美氏（調査・作成）
『高等学校の国語教科書は何を扱っているのか。（国語教科書教材一覧―平成12年度用）』
京都書房（京都市） 2000.1 205p
- ② 吉田裕久氏編
『平成6（1994）年度新版『国語Ⅰ』教科書教材目録』
広島大学教育学部国語教育学研究室 1994.12 230p

◆資料 1. 中国出版の日本文学鑑賞書の目次一覧

①『日本近代名作鑑賞』

譚 晶華編 商務印書館 1992.10 233p

*いずれも抄録

浮雲……………	二葉亭四迷
舞姫……………	森 鴎外
五重の塔……………	幸田露伴
たけくらべ……………	樋口一葉
金色夜叉……………	尾崎紅葉
不如帰……………	徳富蘆花
高野聖……………	泉 鏡花
破戒……………	島崎藤村
坊っちゃん……………	夏目漱石
田舎教師……………	田山花袋
土……………	長塚 節
雁……………	森 鴎外
心……………	夏目漱石
渋江抽斎……………	森 鴎外
明暗……………	夏目漱石
城の崎にて……………	志賀直哉
地獄変……………	芥川龍之介
田園の憂鬱……………	佐藤春夫
ある女……………	有島武郎
友情……………	武者小路実篤
真珠婦人……………	菊池 寛
海神丸……………	野上弥生子
心理実験……………	江戸川乱歩
大菩薩峠……………	中里介山
竹沢先生という人……………	長与善郎
伊豆の踊り子……………	川端康成
伸子……………	宮本百合子
海に生くる人々……………	葉山嘉樹
渦巻ける鳥の群……………	黒島伝治
蟹工船……………	小林多喜二
放浪記……………	林 芙美子

暢気眼鏡……………	尾崎一雄
春琴抄……………	谷崎潤一郎
人生劇場……………	尾崎士郎
紋章……………	横光利一
蒼氓……………	石川達三
夜明け前……………	島崎藤村
いのちの初夜……………	北条民雄
真実一路……………	山本有三
普賢……………	石川 淳
暗夜行路……………	志賀直哉
墨東綺譚……………	永井荷風
雪国……………	川端康成
若い人……………	石坂洋次郎
歌のわかれ……………	中野重治
如何なる星の下に……………	高見 順
菜穂子……………	堀 辰雄
縮図……………	徳田秋声
細雪……………	谷崎潤一郎
李陵……………	中島 敦
白痴……………	坂口安吾
暗い絵……………	野間 宏
俘虜記……………	大岡昇平
人間失格……………	太宰 治
厭がらせの年齢……………	丹羽文雄
遙拝隊長……………	井伏鱒二
二十四の瞳……………	壺井 栄
火の鳥……………	伊藤 整
天平の薨……………	井上 靖
海と毒薬……………	遠藤周作

②『日本近現代文学閲読与鑑賞』

—附日本近現代文学概述』上・下

劉 振瀛・卞 鉄堅・潘 金生編

商務印書館 1993.2 718p

*は、抄録。

浮雲*	二葉亭四迷
-----	-------

舞姫……………森 鴎外
 少年の悲哀……………国木田独歩
 破戒*……………島崎藤村
 藤村詩抄*……………島崎藤村
 吾輩は猫である*……………夏目漱石
 悲しき玩具……………石川啄木
 十一月三日午後の事……………志賀直哉
 お末の死……………有島武郎
 父帰る*……………菊池 寛
 鼻……………芥川龍之介
 田園の憂鬱*……………佐藤春夫
 渦巻ける烏の群……………黒島伝治
 一九二八年三月十五日……………小林多喜二
 最初の記憶……………徳永 直
 伊豆の踊子……………川端康成
 蒼氓*……………石川達三
 菜穂子*……………堀 辰雄
 播州平野*……………宮本百合子
 遙拝隊長……………井伏鱒二
 野火*……………大岡昇平
 絵本……………田宮虎彦
 異域の人……………井上 靖

③『日本近代文言文選』

馬 斌・潘 金生編

商務印書館 1993.8 256p

*は、抄録。

学問のすすめ*……………福沢諭吉
 「平民新聞」創刊の辞
 四国九州遊説雑感……………片山 潜
 貧民論*……………植木枝盛
 一年有半*……………中江兆民
 友愛……………国木田独歩
 かたわむすめ……………福沢諭吉
 呼子と口笛……………石川啄木
 君死にたまふことなかれ……………与謝野晶子

吾家の富……………徳富蘆花
 秋窗雜記……………北村透谷
 野菊*……………国木田独歩
 源おち*……………国木田独歩
 舞姫*……………森 鴎外
 友人の落第を慰む……………正岡子規
 玉勝間*……………本居宣長
 蘭学事始*……………杉田玄白

④『日本現代文学選読』

于 荣胜編

北京大学出版社 1997.1 361p

鼻……………芥川龍之介
 城の崎にて……………志賀直哉
 蠅……………横光利一
 伊豆の踊子……………川端康成
 顔の中の赤い月……………野間 宏
 遙拝隊長……………井伏鱒二
 絵本……………田宮虎彦
 魔法のチョーク……………安部公房
 プールサイド小景……………莊野潤三
 娼捨……………井上 靖

⑤『日本文学』

劉 利国編

北京大学出版社 1997.3 369p

*は、抄録。

ひとすじの道……………東山魁夷
 月夜……………瀬戸内晴美
 砂漠への旅……………森本哲郎
 友情について……………中村光夫
 言葉の意味*……………渡辺 実
 美しい別れ……………渡辺淳一
 元日のこと……………井上 靖
 初秋海浜記……………豊島与志雄
 美を求める心……………小林秀雄

日本の耳*……………小倉 朗
鳥……………大江健三郎
たこになった母さん……………野坂昭如
水泥棒……………黒井千次
海と毒薬*……………遠藤周作
いとしのブリジット・ボルドー*井上ひさし
伊豆の踊り子……………川端康成
城の崎にて……………志賀直哉
赤ままの花*……………堀 辰雄
ころろ*……………夏目漱石
忘れえぬ人々*……………国木田独歩
俳句（芭蕉・蕪村）

和歌

おくのほそ道*（1・2…9・28）

竹取物語*（姫のおひたち）

平家物語*（序）

徒然草*（序・11・137）

方丈記*（序）

枕草子*（1・28）

⑥『日本文学作品選読』

周 平主編／上海市教育委員会組編

上海外語教育出版社 2001.1 564p

*は、抄録。

太郎*……………開高 健
鼓くらべ*……………山本周五郎
走れメロス……………太宰 治
沈黙*……………遠藤周作
鳥……………大江健三郎
棒……………安部公房
野火*……………大岡昇平
黒い雨*……………井伏鱒二
伊豆の踊子*……………川端康成
鼻……………芥川龍之介
ころろ*……………夏目漱石
春琴抄*……………谷崎潤一郎

蟹工船*……………小林多喜二
破戒*……………島崎藤村
舞姫*……………森 鴎外
浮雲*……………二葉亭四迷
奥の細道*
日本永代蔵*
平家物語*
徒然草*
方丈記*
枕草子
源氏物語*
万葉集*

⑦『日本名作高效閲読』

平野芳己・呉 小瑾・呉 珧編著

中国宇航出版社 2004.6 374p

*は、抄録。

狐の嫁入り

浦島太郎

養老の滝

相撲取りの狸

毒入りのご馳走

源氏物語（夕顔の巻）

平家物語（敦盛の最期）

北越雪譜*……………鈴木牧之

舞姫*……………森 鴎外

高瀬舟*……………森 鴎外

金色夜叉*……………尾崎紅葉

高野聖*……………泉 鏡花

野菊の墓*……………伊藤佐千夫

破戒*……………島崎藤村

三四郎*……………夏目漱石

それから*……………夏目漱石

ころろ*……………夏目漱石

お目出たき人*……………武者小路実篤

友情*……………武者小路実篤

愛と死*……………武者小路実篤
 羅生門……………芥川龍之介
 奉教人の死……………芥川龍之介
 カインの末裔*……………有島武郎
 恩讐の彼方に……………菊池 寛
 蠅……………横光利一
 セメント樽の中の手紙……………葉山嘉樹
 春琴抄*……………谷崎潤一郎
 なめこと山の熊……………宮沢賢治
 走れメロス*……………太宰 治
 プルートーのわな……………安部公房
 砂の女……………安部公房
 枕草子（初段）
 方丈記（初段）
 徒然草（初段）
 芭蕉の俳句
 与謝野晶子の短歌
 君死にたまふことなかれ
 石川啄木の短歌
 雨ニモマケズ

⑧『日本近現代文学作品選析』

高 寧・韓 小竜主編

上海外語教育出版社 2004.12 418p

舞姫……………森 鷗外
 花火……………永井荷風
 地獄変……………芥川龍之介
 伊豆の踊子……………川端康成
 冬の蠅……………梶井基次郎
 白痴……………坂口安吾
 小僧の神様……………志賀直哉
 松葉杖の男……………遠藤周作
 赤い繭……………安部公房
 水滴……………目取真俊
 象の消滅……………村上春樹
 家族写真……………辻原 登

⑨『日本現代短篇名作賞析』

由 同来編著

南開大学出版社 2005.6 318p

伊豆の踊り子……………川端康成
 高瀬舟……………森 鷗外
 羅生門……………芥川龍之介
 セメントの樽の中の手紙……………葉山嘉樹
 城の崎にて……………志賀直哉
 顔の中の赤い月……………野間 宏
 夏の花……………原 民喜
 赤い繭……………安部公房
 白い人……………遠藤周作
 鳥……………大江健三郎

⑩『日本近現代文学選読』

何 建軍・臧 運発・史 軍編著

南開大学出版社 2006.2 478p

*は、抄録。

浮雲*……………二葉亭四迷
 五重塔*……………幸田露伴
 破戒*……………島崎藤村
 坊っちゃん*……………夏目漱石
 青年*……………森 鷗外
 播州平野*……………宮本百合子
 鼻……………芥川龍之介
 伊豆の踊子……………川端康成
 近代和歌の鑑賞……………鈴木正彦

⑪『日本近現代文学名作選析』

肖 書文編著

華中師範大学出版社 2007.8 258p

*は、抄録。

高瀬舟……………森 鷗外
 夢十夜……………夏目漱石
 城の崎にて……………志賀直哉
 地獄変……………芥川龍之介

春琴抄*……………谷崎潤一郎
 たまゆら……………川端康成
 富嶽百景……………太宰 治
 注文の多い料理店……………宮沢賢治
 星新一掌篇小説2篇
 1. 宿命
 2. 女と金と美
 飼育*……………大江健三郎

⑫『日本名著賞析』

何 志勇・張 衛娣編著

上海世界図書出版公司 2007.9 250p

*いずれも抄録

浮雲……………二葉亭四迷
 金色夜叉……………尾崎紅葉
 五重塔……………幸田露伴
 たけくらべ……………樋口一葉
 蒲団……………田山花袋
 高瀬舟……………森 鴎外
 彼岸過迄……………夏目漱石
 牛肉と馬鈴薯……………国木田独歩
 すみだ川……………永井荷風
 友情……………武者小路実篤
 奉教人の死……………芥川龍之介
 藪の中……………芥川龍之介
 生まれいづる悩み……………有島武郎
 檸檬……………梶井基次郎
 蟹工船……………小林多喜二
 銀河鉄道の夜……………宮沢賢治
 風立ちぬ……………堀 辰雄
 雪国……………川端康成
 蒼氓……………石川達三
 ジョン万次郎漂流記……………井伏鱒二
 路傍の石……………山本有三
 天の夕顔……………中河与一
 夫婦善哉……………織田作之助

李陵……………中島 敦
 人間失格……………太宰 治
 潮騒……………三島由紀夫
 天平の薨……………井上 靖
 古都……………川端康成
 黒い雨……………井伏鱒二
 華岡青洲の妻……………有吉佐和子

⑬『日本文学選読』

傳 萌編著

対外経済貿易大学出版社 2007.11 234p

*は、抄録。

舞姫……………森鴎外
 破戒*……………島崎藤村
 ころろ*……………夏目漱石
 城の崎にて……………志賀直哉
 羅生門……………芥川龍之介
 蠅……………横光利一
 かけす……………川端康成
 屋根の上のサワン……………井伏鱒二
 走れメロス……………太宰 治
 風立ちぬ*……………堀 辰雄
 靴……………安部公房
 ガラスの靴……………安岡章太郎
 おーい でてこい……………星 新一
 知った顔……………向田邦子
 鏡……………村上春樹
 TUGUMI 一告白……………吉本バナナ
 ひよこの眼……………山田詠美
 美を求める心……………小林秀雄
 宙に浮かんだ馬—または瞬間について
 ………………大江健三郎
 枕草子 (1)
 徒然草 (1・19)

⑭『日本近代文学作品選読』

李 洪学・曹 志明編著

黒竜江大学出版社 2007.11 278p

*は、抄録。

浮雲*……………二葉亭四迷
舞姫*……………森 鴎外
ころも*……………夏目漱石
羅生門……………芥川龍之介
高瀬舟……………森 鴎外
城の崎にて……………志賀直哉
カインの末裔*……………有島武郎
暗夜行路*……………志賀直哉
蠅……………横光利一
伊豆の踊り子……………川端康成

⑮『日本文学選集』

趙 曉柏・応 傑・陶 振孝編著

外語教学与研究出版社 2008.4 689p

*は、抄録。

万葉集*
古事記*
竹取物語*
古今和歌集*
伊勢物語*
大和物語*
土佐日記*
枕草子*
源氏物語*
更級日記*
大鏡*
今昔物語集*
新古今和歌集*
平家物語*
宇治拾遺物語*
方丈記*
徒然草*

隅田川*

御伽草子*

世間胸算用*

奥の細道*

俳句

雨月物語*

浮雲……………二葉亭四迷

十三夜……………樋口一葉

少年の悲哀……………国木田独步

親子そば三人客……………泉 鏡花

深川の唄……………永井荷風

舞姫……………森 鴎外

「藤村詩集」序

心*……………夏目漱石

刺青……………谷崎潤一郎

小さき者へ……………有島武郎

羅生門……………芥川龍之介

城の崎にて……………志賀直哉

秋立つ……………佐藤春夫

蠅……………横光利一

葬式の名人……………川端康成

セメント樽の中の手紙……………葉山嘉樹

黒い雨……………井伏鱒二

不器用な天使……………堀 辰雄

魚服記……………太宰 治

野火*……………大岡昇平

サーカス……………三島由紀夫

棒……………安部公房

不意の唾……………大江健三郎